

# 将来設計を考えた経営継承

## 経営継承までのプロセス

### 2014年

後継者は酪農ヘルパーをしながら、経営継承できる酪農家がないかを探し始める

### 2017年

先代経営者は娘4名と家族会議を行い、親族継承はしないことを確認

### 2018年

後継者より先代経営者に対し、経営継承したい旨を申し出、了承

### かくして具体的に 継承の取組みがスタート!

関係者に継承に必要な資金調達や契約内容の相談開始

### 2019年

普及指導センターに通いながら、経営継承画書の作成に着手

### 2020年10月

先代経営者の農場で研修を開始

金融機関に、事業計画の提出と借入相談を開始。事業譲渡契約締結に向け第三者支援のもと本格的に開始

事業譲渡契約により継承



先代経営者/  
阿部 隆一さん  
(63歳)の場合

計画的な経営継承の重要性に早くから気づき、10年かけて実行に移す。親族に継承の意思がないことを確かめ、第三者継承を目指した。

- 収入金額：38百万円(2018年)
- 所得金額：16百万円
- 従業員数：家族従事者1名
- 事業地：岩手県岩泉町
- 事業概要：農産物の生産(酪農)
- 規模：経産牛26頭、牛舎528㎡、牧草地8ha

# 酪農ヘルパーに継承（第三者継承・個人）

## 継承内訳

### 人（経営権）の継承

- 事業譲渡半年前より、先代経営者から農業経営に関する指導を受ける。

### 資産（モノ・カネ）の継承

- 事業譲渡契約を行い、農地以外の資産を一括譲渡。  
対象・農業用機械、牛舎、生物（経産牛）  
資金調達は、青年等就農資金を利用。
  - 農地については、農地中間管理機構を利用し、賃借（有償）。
- 【金額の算定】**
- 機械はメーカー中古価格を参考。乳牛は市場価格とJAの評価。不動産は固定資産税評価額を参考とした。



### 知的資産の継承

- 継承後も生産技術指導として、先代経営者と年間雇用契約（時間給）を行い、継続的な関係を維持し、経営のアドバイスを随時もらう。

## 継承後の経営発展と今後の取組み

後継者／山屋 祐太さん（28歳）

継承年月…2020年10月  
収入金額…非公開  
所得金額…非公開  
従業員数…家族従事者1名、アルバイト1名（移譲者）  
事業概要…農産物の生産（酪農）  
規 模…経産牛39頭、牛舎528㎡、牧草地8ha

経営主として、責任を感じ、いかに経営を維持発展させるかを考えている。先代経営者が大切にしてきた設備を譲りうけたことで、物の大切さを実感しており、修繕しながら、効率のよい生産を目指す。

機械化にも徐々に取組み、作業効率を上げ、規模拡大も検討しながら、地元の重要な産業として、盛り上げていく。



次ページにて継承ポイントを詳しく解説

# 阿部さんのケースから学ぶ 経営継承あるある

## 登場人物



先代経営者：阿部隆一



後継者：山屋祐太



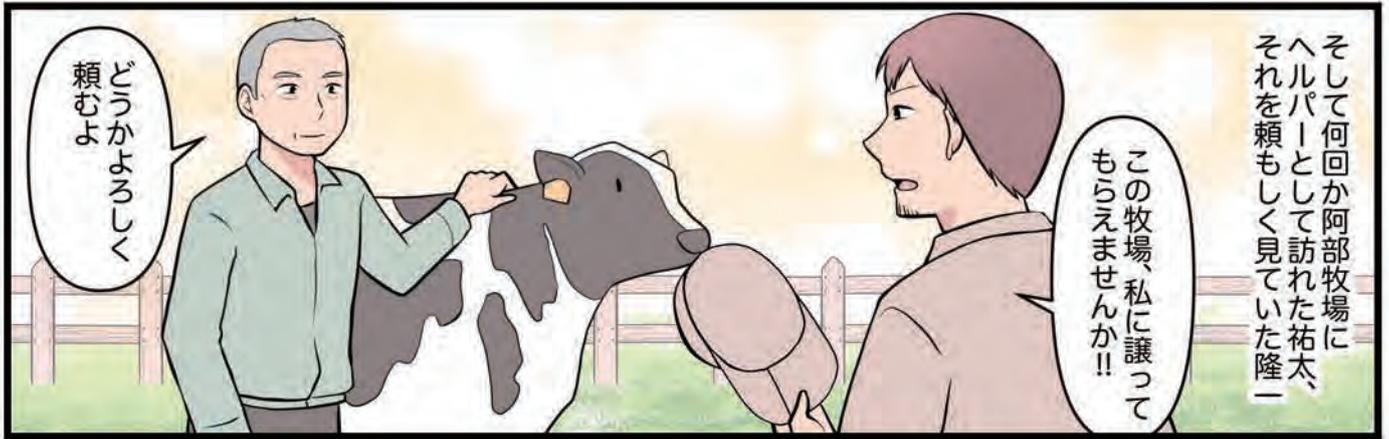
## グッドポイント①

先代経営者は、夫婦のどちらかが  
体調をこわすと経営が悪化し、廃  
業にもつながることから、65歳ま  
でに借金なしで継承すると決めて  
いた。また、人生設計で酪農をや  
めた後にすることのイメージも  
持っていた。

55歳のときに嫁いだ娘たちとの家  
族会議を開き、親族は継がないこ  
とを確認。家業の今後のことは  
先代経営者夫婦に任せることで  
合意。

人生設計を  
考えた継承





### グッドポイント②

先代経営者は、第三者に継承しようと決意。農業関係機関などに第三者継承の候補者を探していることを伝えた。自ら所有している機械・施設と牛の売買価格を計算し、その金額も併せて提示。「まだ若いのに冗談でしょう」と最初は言われたが、徐々に周囲に浸透し、自らも後継者候補へ声を掛けた。

早くからの呼びかけ



### ケアポイント

今回のケースでは、資金調達に当初のスケジュールどおりに進まなかったことで、他の引継ぎにも影響があった。後継者は用意できる担保が少なく、経営実績も短いため、金融機関の審査に時間を要することが多い。金融機関に対し、積極的に審査状況を確認し、資料作成等適時適切な対応が重要である。

資金調達の難しさについて